

RS ウイルス感染症定期予防接種のお知らせ

令和 8 年 4 月1日から、妊婦の方を対象に RS ウイルス感染症の定期予防接種を開始します。

● 対象者

福岡市に住民票がある、**妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日**の間にある方
 (妊娠する毎に1回接種)

● 費用

無料

● 接種場所

福岡市が指定した医療機関(福岡市ホームページに掲載します。)

(里帰り出産などにより上記以外で接種を希望する場合は、事前にお住いの区の健康課で予防接種実施依頼書の発行を受ける必要があります。)



指定医療機関
 (福岡市ホームページ)



● 接種日に持参するもの

- ・母子健康手帳
- ・身分証明書(氏名、住所、生年月日の確認ができるもの)

指定医療機関以外での
 接種手続き



● お問い合わせ先

お問い合わせは、各区健康課へ。

市外にお住いの方は、住所地の市町村役場にお尋ねください。

問合せ先	電話番号	FAX 番号
東区健康課	092-645-1078	092-651-3844
博多区健康課	092-419-1091	092-441-0057
中央区健康課	092-761-7340	092-734-1690
南区健康課	092-559-5116	092-541-9914
城南区健康課	092-831-4261	092-822-5844
早良区健康課	092-851-6012	092-822-5733
西区健康課	092-895-7073	092-891-9894

● RSウイルス感染症とは

RSウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。感染すると2~8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状がでるなど重症化することがあります。

● RSウイルス母子免疫ワクチンとは

RSウイルスワクチンは妊娠している方に接種することで抗体が胎児に移行し、生まれた乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができるワクチン(母子免疫ワクチン)です。

● ワクチンの効果

		生後90日時点	生後180日時点
母子免疫ワクチンの効果	RSウイルス感染による医療受診を必要とした肺炎・気管支炎等の下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
	RSウイルス感染症による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニュラまたは人工呼吸器の装着、4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

● ワクチンの安全性

ワクチンの接種後に副反応がみられることがあります。

主な副反応には、接種部位の症状(疼痛、腫脹、紅斑)、頭痛、筋肉痛があります。また、頻度は不明ですがショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

なお、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあるものの、日本の薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。